

## Q.栽培に失敗しないためには、どうすればいい？

A.まず、自分が作りたいものの栽培法方をよく調べて、無理のない計画をたてること。一番大切なのは、栽培する時期だ。野菜には、それぞれ栽培しやすい時期が決まっているので、それを守る。あと、肥料・水やりなど、その野菜にあった世話を、ちゃんとしてやること。やりすぎも、やらないのも、どちらも失敗する原因になる。こまめに観察することは、すごく大切なことだよ。変だな、おかしいな、と思ったら、すぐ世話をしあげられるからね。

## Q.道具は何を、どこでそろえるの？

A.本格的に作物を畑で作るとなると、色々な道具がほしくなるけど、ほとんどのものは園芸店やホームセンターで売っている。でも、この本に出てくる中で、特別に必要なのは、畑を耕す「かんり機」ぐらい。これは、たぶん、持っている人は探せば必ずいると思う。「うね」を作ったりする「くわ」も、そんなに広い畑でなければ、スコップでも何とかなる。頭を使って、身近なものを工夫して使おう。プランターなんか、プラスチックのバケツに穴をあけて作れる。化成肥料や苗は、買うしかないけど、そんなに高くないよ。

## Q.肥料の種類を教えてください。

A.大きく分けて「化成肥料」と「有機質肥料」にわけられるよ。

化成肥料とは、化学的に作った肥料のこと。植物にとって大切な肥料分に「チッソ」「リン酸」「カリ」という3つのものがあるんだけど、この3つを、色々な割合で混ぜた化成肥料が売られている。袋を見ると、その割合が、数字で並べて書いてあるので、参考にしよう。この本で「化成肥料を使う」と書いてある所は、普通に売られている「8-8-8」から「10-10-10」の割合のものを使おう。ちなみに、「チッソ」は、空気の中のチッソを集めて作るんだ。化成肥料は、まいてすぐ効き目が現れるものが多いよ。

「有機質肥料」は、植物・動物の骨・ふんなどを腐らせたり、焼いたりして作った肥料だ。代表的なものは植物を腐らせた「堆肥」、油を絞ったかすを発酵させた「油かす」、鳥のふんを発酵させた「鶏ふん」などがある。どちらかという、ききめはゆっくりのものが多い。

化成肥料は、どんなものがどれくらい入っているのか、はっきりしているので、まいていい量もけんとうがつくし、人にも教えやすい。ところが、有機質肥料は、それが分かりにくい。同じものでも、作り方によって、肥料分も変わってくるので、どのくらいまけばいいのかも、はっきりさせにくいんだ。でも、有機質肥料は、味を良くしたりする効果があるし、「堆肥」のように、土をふかふかにやわらかくしてくれる効果がある。目的によって使い分けるのがいいね。



←普通、このあたりに書いてあるよ！  
これは、チッソ8%、リンサン8%、カリ8%だ。

《化成肥料の袋》